

きずな

5月号(皐月)

赤磐市立山陽東小学校

上級生ががんばっています

毎朝、学校の児童玄関の周りを掃除している子どもたちがいます。校門では、登校してくる友達に「おはようございます!」と、大きな声をかけている子どもたちがいます。2階や3階の教室の窓からも「おはようございます!」というあいさつ運動を続けている上級生の声が響いてきます。

朝8時の山陽東小学校の風景には、6年生を中心とした上級生が活躍している姿が見られます。委員会活動だけでなく、「朝ボラ」と言って、朝の時間にボランティアをする6年生が多いということを担任の先生方に教えてもらいました。

学校のいいところは、こうした上級生のお手本となる行動を、どの学年の子どもたちも見ることができることだと考えています。この「朝ボラ」には、他学年の人たちも参加しているとのこと。一人ひとりの力は小さいかもしれないけれど、少しずつ協力して取り組むことで大きな力となり、学校が、気持ちよく生活できる場所になっていきます。朝のひとつときはボランティアの原点を感じる時間にもなっています。

子どもたちが自然にボランティアをすることができる背景には、地域の方々のボランティア活動があるのではないかと感じています。毎日、登下校の時間に、子どもたちが安全に通学できるように支援をしてくださる方々、様々な学習活動への支援をしてくださる方々が、山陽東小学校の学区にはたくさんいらっしゃいます。こうした地域の方を見て育つ子どもたちにとっては、ボランティアに参加することも当たり前のことなのかもしれません。こうした地域の支えのおかげで、山陽東小学校は、日々、安心して学習を進める事ができています。本当に、いつもありがとうございます。(石原 順子)

<東小のそよ風①>子どもたちの居場所

私自身が高校生になったばかりの頃、登下校の時間がとても憂鬱でした。行き帰りに話をする友達がいなかったからです。楽しそうに会話を続ける高校生の近くで、私はいつも、電車の窓からレンゲ畑を所在なく眺めていました。とても長い時間でした。でも、この長い時間は、1ヶ月で終わりを迎えることができました。一緒に通学をする友達ができたのです。毎年、4月の新学期にレンゲ畑を見ると、自分の居場所がなかった高校1年の4月を、さびしさと共に思い出します。

東小学校の子どもたちも、新学年が始まって1ヶ月。新しい学年、新しいクラス…様々な新しいことの中で、自分の居場所が見つけれられていない子どもはいないだろうか。ちょっとさびしい気持ちになっている子どもはいないだろうか。ふとそんなことを思います。「もし、困っていたら、先生たちに相談したらいいよ。先生たちは一生懸命になって、あなたのことを考えてくれるよ。」と、子どもたちに話したくなります。東小の全ての子どもたちに居場所がある学校を作っていきたいと、今年は違う気持ちでレンゲ畑を眺めました。(石原)